

講義名	キャリア社会学(オンデマンドの回あり)			授業形態	
担当教員	桑原 桃音	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

本講義では、まず、働き方の変化、多様な働き方について概観する。
つぎに、働くことをめぐる個人と社会の関わりはどのようなものかを社会学の視点で読み解く。
さらに、ライフコースの概念から職業キャリア以外のキャリアとは何かを理解し、就職活動、就職後生活、引退後の生活をふまえながら、キャリアデザインについて学ぶ。同時に若者のキャリア意識に関する参考文献をヒントにキャリア探索と自己効力の関連性について学ぶ。
さいごに、働くことにかかわる変化とその課題について理解しながら、多様な労働者の働きやすさのために、あるいは多様な生活者の生きやすさのために求められる社会のあり方とは何かを検討し、考察する。

【オンデマンド型について】
・この講義は、15回中10回がオンデマンド型授業です(オンデマンド型には対面とオンデマンドをどちらでもやるハイブリッドの回も含まれる)。
・オンデマンド型授業とは、教材と学習方法をオンライン上の動画等で教員が提示し、学生が各自で学習するものです。動画等で課題の指示があり、学生が各自で学習するものです。動画等で課題の指示があり、学生が各自で学習するものです。動画等で課題の指示があり、学生が各自で学習するものです。
・毎回、前日までにキャンパスクロスを確認して、次の回が対面授業かオンデマンド型授業かを確認して授業を受講してください。

到達目標

- (1)「働くこと」をめぐる個人と社会の関わり、およびその変化と課題について社会学の視点を用いて理解し、説明することができる。
- (2)人びとのキャリア意識について知り、将来の自分のライフコースを想定し、キャリア自己効力とキャリアデザインについて理解したうえで大学生生活の過ごし方を考え、計画することができる。
- (3)性別、国籍、障害や病気の有無によって、キャリア形成のうえで抱えやすい問題や、置かれている現状について知る。
- (4)上記の知識と能力を用いて、どのような境遇におかれても誰もがワーク・ライフ・バランスを保持しながら働ける社会の意義を理解し、現代日本社会におけるキャリアにかかわる問題を検討し、働きやすさと生きやすさのために何が必要かを考察し、提案をすることができる。

提出課題

- ・対面授業の課題：講義時にワークシートや小テストに解答するか、もしくは毎回講義を受講した後、LMS（学習管理システム）、おもにキャンパス・クロス等でワークシートやコメント等を提出する。
- ・オンデマンド型授業の課題：キャンパスクロスで授業内容と動画等を確認し、動画を視聴する。動画視聴後にLMS（学習管理システム）、キャンパス・クロスを経由して小テスト、LMSの課題、コメント等を提出する。
- ・対面授業形式ではマークシート形式で、これまでの課題をふまえたテストを複数回実施します。どちらの形式の授業でも、キャンパスクロスのテスト機能を用いて小テストを実施します。繰り返し小テストを受けることで、テストの形式に慣れ、授業内容について理解を深められるようにします。
- ・不定期に特別課題、小テストを課す。また学びを深め、評価を上げたい学生のために発展課題を課す。
- ・授業中半で、中間テストを課す(授業の進度や受講生の様子を見て中間レポートに切り替える場合もある)。中間試験のみ受験、もしくはレポートの未提出によって点数が下がり、単位が認定されない場合があるので注意すること(レポートの場合は1500字-2000字を予定)。
- ・最終テストの内容については講義時に詳細を説明する。レポートの説明内容だけでは解けないので注意すること。また、最終テストを受験しない場合は授業を「放棄」したとみなし、単位を認定しない。履修要項などの試験の受験上の注意をよく読んで取り組むこと。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

- ・対面授業形式の回の冒頭で、前週までに行った課題やLMS(学習管理システム)でのコメント・質問に対し、回答します。
- ・さらに、中間、期末にフィードバックに多くの時間を割いた授業を行う。課題の模範解答、正答率が低い問題の解答、質問・コメントを中心にフィードバックしていく。

評価の基準

- ・平常点50% (講義内の課題、不定期に実施する小テスト)
 - ・テスト・試験50% (中間試験20%、最終試験30%)
- 20分以上の遅刻は欠席扱い。
居眠り、私語、指示のないスマートフォン等の電子機器の利用はいずれも欠席扱い。
欠席が5回以上になったら単位不認定とする。同様に毎回の課題の未提出が5回以上になったら単位不認定となる。
次の行為は判明した時点で単位不認定。
課題やレポート内容にインターネットからの盗作・剽窃があった場合。
他学生の課題、クリッカー、レポートをコピーして提出した場合(この場合はコピーしたものを/させたものどちらも不認定)。
、ともに部分的な盗作、剽窃、他学生の課題内容のコピー&ペーストでも単位不認定。

履修にあたっての注意・助言他

- ・教科書は授業で使用するので必ず購入すること。テスト・試験も教科書から出題される。
 - ・教室内で他の学生が学習する機会、権利を侵害する行為(私語・携帯電話やスマホの使用・授業途中の入退出など)をする者はその日は欠席扱いとし、退出を指示することがある。
 - ・各課題の記述式で盗作・剽窃したものは、それまでの課題点がどれだけよくても、発見した時点で単位不認定とする。
- 対面授業、オンデマンド型授業共通
・LMS(学習管理システム)を利用するので、初回授業の指示に従って速やかに準備を整えること。
・毎回講義前にキャンパスクロス(スクロスの講義連絡、授業教材フォルダ等)を確認すること。
・教科書を使用するので、必ず準備すること。
・予復習を必ずすること。

- オンデマンド型授業
1) 授業日前日までにキャンパスクロスにおいて教材、学習方法、動画等について確認しておくこと。
2) 動画視聴前に準備を終わらせておくこと。
3) 教科書や教材を参照しながら、指定された動画や教材を視聴・確認すること。
4) 指示された課題、小テストを実施して提出し(ノックアウト)、授業内容を整理・まとめるなどで復習時間を確保すること。
課題のメチア提出方法は動画内で示される。

教科書

キャリアのみかた -- 図でみる110のポイント 改訂版。	阿部 正浩・松繁 寿和	有斐閣	2090	9784641164383
-------------------------------	-------------	-----	------	---------------

参考図書

自分と社会からキャリアを考える：現代青年のキャリア形成と支援。	安達 智子	晃洋書房	2860	9784771032262
「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学。	小川 慎一ほか	有斐閣	2530	9784641220430

その他

- ・講義時に資料とレジュメを配布する。Ryuka Portalを介して配布することもある。
- ・参考文献は適宜指示する。インターネット上のサイトなども利用する。

授業計画

- 【対面】第1回 ガイダンス&働くってどういうこと？(1) 労働の仕組み
予習：シラバスをよく読み特に興味を持った授業回の内容に関する新聞記事、Webマガジン、ニュース動画、論文等をつみつけて確認しておく(2時間)。
復習：出題された課題を解き、講義資料を見たらうえてノートを整理し、考えたことをまとめる(2時間)。
- 【対面】第2回 働くってどういうこと？(2) 官僚制、組織
予習：教科書、配布資料のわからない言葉を調べ、興味を持った内容をノートにまとめる(2時間)。
復習：出題された課題を解き、教科書・資料を見たらうえてノートを整理し、考えたことをまとめる(2時間)。
- 【オンライン】第3回 産業化：産業とは？ 職業とは？ | 予復習 1の内容と同じ
【オンライン】第4回 ダイバーシティ求められる多様性(1) キャリアとジェンダー | 予復習 1の内容と同じ
【オンライン】第5回 ダイバーシティ求められる多様性(2) 働きやすい社会のために | 予復習 1の内容と同じ
【オンライン】第6回 働き方の変化 | 予復習 1の内容と同じ
【対面】第7回 中間テスト、前半まとめ
予習：教科書、講義資料を見たらうえて、わからない言葉を調べ、興味を持った内容についてまとめ、考えたことをノートにまとめる(2時間)。
復習：出題された課題を解き、講義資料を見たらうえてノートを整理し、考えたことをまとめる(2時間)。
- 【対面】第8回 キャリア自己効力 | 予復習 1の内容と同じ
【対面】第9回 キャリアデザインと自己効力 | 予復習 1の内容と同じ
【オンライン】第10回 就職活動と大学教育 | 予復習 1の内容と同じ
【オンライン】第11回 求職と求人と賃金格差 | 予復習 1の内容と同じ
【オンライン】第12回 グローバリゼーションと外国人労働者 | 予復習 1の内容と同じ
【対面】第13回 ダイバーシティ求められる多様性(3) 合理的調整と障害者雇用 | 予復習 1の内容と同じ
第14回 まとめとグループワーク | 予復習 1の内容と同じ
第15回 まとめテスト
予習：これまでの授業内容をもちにテストに向けた勉強をしておく(2時間)。
復習：出題された課題を解き、講義資料を見たらうえてノートを整理し、考えたことをまとめること(2時間)。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目は、産業社会、労働社会、「働くこと」を軸として、社会学的に現実社会のさまざまなテーマに取り組みながら、社会構造、社会制度、「働くこと」、ライフプランにかかわる知識と、その社会的な意義や役割を理解することを目指す。

さらに、多様な人々が共にキャリアを通して自己実現していく、ワーク・ライフ・バランスの実現・継続ができる社会を実現する意義を理解し、さまざまな境遇に置かれた人々の問題状況を把握し、問題改善するために何が必要かを考察し、提案できる能力を培うことができ、自分自身がよりよい社会実現のために、どのように貢献することができるかを考察することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ・対面授業やオンデマンド型授業どちらでもICTを活用した授業を実施します。毎回の授業時にはスマートフォン、もしくはPCやタブレット等を準備してください。
- ・オンデマンド型授業では動画を視聴します。OneDriveにログインして動画ファイルを再生する方式を主に採用しますが、慣れるまではYouTubeでの視聴方式を採用する可能性もあります。オンライン上の動画を視聴できる環境を整えましょう。
- ・LMS(学習管理システム)を利用するので、大学のメールアドレスをあらかじめ確認しておき、初回授業の指示に従って速やかに準備を整えること。

実務経験の有無及び活用

実務経験なし

備考

やむを得ない欠席の場合の対応について、必ず教務部指定の欠席届と信ぴょう性書類も提出すること。教員から指示があれば指定された締め切りまでに課題を提出すること。